

実体経済の動向

◇ 3月の出荷は大幅増加、製品在庫は微減

(生産——大勢横ばい基調)

鉱工業生産(季節調整済み、前月比)は、2月増加(+0.5%)のあと、3月(速報)は-0.1%の微減となった(船舶を除くと+0.1%)。3ヵ月移動平均の前月比でも、12月+0.1%、1月+0.9%のあと2月は保合いとなり、生産の基調は大勢横ばいにかかわれる。なお、原計数の前年同月比は3月+6.8%(2月同+7.9%)と引き続き低下した。四半期別にみると、45年10~12月期に前期比-0.6%のあと、1~3月期(速報)は+1.0%と増加したが、増加幅はかなり小幅であった。

3月の動きを特殊分類別にみると、資本財輸送機械が大型乗用車、鉄道車両等を中心に小幅増加を示し、耐久消費財が前月並み(電気冷蔵庫、洗たく機等が減少の反面、カラーテレビ、乗用車は増加)となったほかはいずれも減少を示した。一般資本財の減少(-1.1%)は金属加工機械、合成樹脂加工機械、化学機械が中心で、また建設資材

(-1.9%)では、鉄骨、セメント、板ガラス等が減少した。非耐久消費財(-0.1%)では、たばこ、灯油等が上昇した反面、繊維二次製品、塩ビ製品等が減少した。生産財の続落(-0.1%)は鉄鋼、化学肥料等の減少によるものである。

(出荷——期末要因もあり大幅増加)

鉱工業出荷(季節調整済み、前月比)は、2月減少(-1.0%)のあと3月(速報)は+6.1%の大幅増加となった(船舶を除くと+4.8%)。原計数の前年同月比は+6.6%となお低水準ながら1月(+6.2%)、2月(+4.5%)の伸びを上回っており、3ヵ月移動平均の前月比でも2月は+1.1%と1月(+0.9%)に続いて伸び率を高めている。四半期別にみても、45年10~12月期に生産同様、前月比-0.6%の減少を示したあと、1~3月期(速報)は+2.3%と増加し、生産の伸びを上回った。

3月の動きを特殊分類別にみると、期末の特殊事情もあって各財軒並み増加したなかで、資本財輸送機械が船舶、鉄道車両、大型乗用車、小型トラックを中心に著増を示し、耐久消費財もカラーテレビ、エアコンデショナー、乗用車等の好伸を映じて+11.8%の大幅増加となったのが目だった。また、生産財(+3.3%)では化学薬品類、合成樹脂

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	45年				46年		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1月	2月	3月
鉱工業	205.5	216.0	221.5	220.2	221.8	222.8	—
前期(月)比	3.2	5.1	2.6	0.6	-0.5	0.5	-0.1
前年同期(月)比	19.0	18.4	16.9	10.8	10.0	7.9	6.8
投資財	7.9	6.5	3.8	1.6	-0.6	1.3	-0.6
資本財	10.1	6.3	5.7	2.2	-1.0	1.9	0.2
同(輸送機械を除く)	12.2	6.1	7.5	2.7	0	0.4	-1.1
輸送機械	5.7	7.4	-1.0	2.3	-2.0	4.9	—
建設資材	2.4	6.2	-1.0	-0.1	1.6	-2.1	-1.9
消費財	-2.1	6.2	1.5	-2.9	-0.9	0.7	0.1
耐久消費財	-4.9	5.8	2.0	-3.6	-1.5	1.9	0
非耐久消費財	1.6	4.8	1.3	-1.8	0.8	-1.2	-0.1
生産財	3.1	2.9	1.6	-0.4	-0.2	-0.3	-0.1

(注) 1. 通産省調べ、46年3月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	45年				46年		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1月	2月	3月
鉱工業	202.7	205.4	201.9	209.6	211.6	209.6	222.4
前期(月)比	5.3	1.3	2.6	-0.6	-1.6	-1.0	6.1
前年同期(月)比	20.2	15.4	14.3	8.2	6.2	4.5	6.6
投資財	10.3	2.1	3.1	2.3	-4.0	-2.0	7.8
資本財	14.0	0.4	4.5	3.2	-4.7	-2.0	10.5
同(輸送機械を除く)	10.8	2.2	7.4	-0.3	-1.3	-2.2	2.4
輸送機械	21.0	-4.2	0.2	9.3	-9.5	-2.3	—
建設資材	0.9	6.5	-0.5	0.2	-2.0	-2.2	0.8
消費財	1.3	2.2	2.7	-3.4	-0.4	0.5	8.5
耐久消費財	-2.7	3.3	2.9	-3.2	-6.0	-1.5	11.8
非耐久消費財	3.2	0.9	3.3	-3.2	2.3	0.1	1.1
生産財	4.2	0.9	1.7	-0.6	-1.7	-0.4	3.3

(注) 1. 通産省調べ、46年3月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

が不振であった反面、鋼材が相当増加したが、このような船舶、乗用車、カラーテレビ、鋼材等の増加には、輸出の好調がかなり寄与しているものとみられる。一般資本財も土木建設機械等が不振を続けたが、発電機、電算機等が増加をみたため+2.4%の反動増(前月-2.2%)となった。建設資材(+0.8%)ではアルミサッシ、板ガラスが前月に引き続き増加し、また非耐久消費財(+1.1%)ではメリヤス外衣、ポリエチレン製品等が増加した。

(製品在庫——約1年ぶりに減少)

生産者製品在庫(季節調整済み、前月比)は、3月(速報)は-0.9%と45年2月以来1年1ヵ月ぶりに減少した。原計数の前年同月比でも+27.8%と前月(+29.4%)をわずかながら下回っている。3ヵ月移動平均の前月比でみると12月+1.6%、1月+1.3%、2月+0.6%と増加幅はこのところ月を追うごとに小さくなっている。1~3月期でも、10~12月期に+10.2%と大幅に増加したあと、+1.7%の微増にとどまった。

3月の動きを特殊分類別にみると、資本財輸送機械(中・小型トラック等が中心)および建設資材の増加(板ガラス、陶磁器等)を除いてはいずれも

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	45年				46年		
	3月	6月	9月	12月	1月	1月	2月
鉱工業	185.5	199.1	211.5	233.1	235.7	239.2	—
前期(月)末比	-0.5	7.3	6.2	10.2	1.1	1.5	-0.9
前年同期(月)末比	16.3	18.3	21.6	25.7	26.6	29.4	27.8
製品在庫率	89.0	94.4	99.6	108.4	111.4	114.1	106.6
投資財	3.3	13.7	8.3	15.3	2.7	3.8	-0.1
資本財	1.7	17.9	8.8	22.2	4.3	4.1	-1.8
同(輸送機械を除く)	4.0	17.0	13.9	20.6	3.7	5.0	-3.3
輸送機械	-9.2	20.9	-10.6	26.4	9.0	1.1	3.7
建設資材	5.3	8.3	8.0	5.4	0.9	2.9	2.0
消費財	-5.7	6.1	3.9	9.6	-0.8	-0.4	2.0
耐久消費財	-2.2	8.2	4.5	0.8	-0.6	0.3	-2.0
非耐久消費財	-2.9	5.4	1.1	15.8	-0.9	-1.1	-0.2
生産財	1.8	7.0	6.9	7.6	3.0	2.3	-0.4

(注) 1. 通産省調べ、46年3月は速報。

2. 前年同期(月)末比は原指数による。

減少を示した。一般資本財(-3.3%)では農業用機械、工作機械、標準モーターが減少しており、また生産財(-0.4%)ではトランジスタ等電子部品、電気銅、板紙等の減少が目だった。

以上の結果、3月の製品在庫率指数(季節調整済み、40年=100)は106.6と前月(114.1)よりかなり低下した。3ヵ月移動平均でも2月は110.6と12月(110.8)、1月(111.3)を下回っている。

(原材料在庫——3月はやや増加)

製造工業の原材料在庫(季節調整済み、前月比)は、2月に+0.2%のあと3月(速報)は+2.7%の増加となった。特殊分類別にみると、国産素原材料(鉄くず、亜鉛鉱、パルプ材)が+7.6%と大幅増加を示し、このところ微減傾向を続けてきた国産製

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	45年		45年	46年		
	9月	12月	3月	1月	2月	3月
在庫指数	170.0	173.0	185.0	179.7	180.1	185.0
前期(月)末比	6.6	1.8	6.9	3.9	0.2	2.7
国産分	5.1	1.1	6.5	2.5	0.6	3.3
素原材料	7.1	3.6	22.7	11.0	2.7	7.6
製品原材料	5.3	-0.1	1.5	-0.3	-0.2	2.0
輸入分	11.3	4.6	9.1	8.0	-0.9	2.0
素原材料	11.3	5.1	10.1	8.6	-0.9	2.3
在庫率指数	83.8	85.6	91.8	88.5	89.7	91.8
国産分	79.9	81.1	86.8	82.9	84.2	86.8
素原材料	88.8	92.7	117.6	104.0	108.5	117.6
製品原材料	80.7	81.0	82.2	80.3	80.8	82.2
輸入分	94.5	98.5	106.3	104.1	106.7	106.3
素原材料	94.0	98.0	106.0	103.9	105.9	106.0

(注) 通産省調べ、46年3月は速報。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	45年			45年	46年	
	6月	9月	12月	12月	1月	2月
総合指数	172.3	177.3	184.3	184.3	189.0	184.4
前期(月)末比	7.2	2.9	3.9	0.3	2.6	-2.4
素原材料	-6.2	3.9	12.0	9.0	4.2	-1.5
製品	8.4	2.3	3.2	-0.4	2.4	-2.2

(注) 通産省調べ、46年2月は速報。

品原材料(コークス、重油等、+2.0%)のほか、輸入素原材料(鉄鉱石、ボーキサイト等、+2.3%)もそろって前月を上回った。四半期別にみると、10~12月期に+1.8%の微増にとどまったあと、1~3月期は+6.9%と再び増加幅が拡大したが、これは主として素原材料在庫の増加によるものである。

(販売業者在庫——2月は7か月ぶりに反落)

販売業者在庫(季節調整済み、前月比)は1月に+2.6%と増加したあと、2月(速報)は-2.4%と7か月ぶりに反落した。品目別にみると、非鉄金属、石油製品、原糸等が増加している反面、民生用電気機械、自動車、繊維原料、洋紙等が減少を示した。

(設備投資——3月の機械受注は期末事情もあり著増)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み、前月比)は1月-1.3%、2月-2.2%と統落したあと、3月(速報)は+2.4%の増加となった。もっとも増加の内容をみると、発電機、デジタル計算機、農業用機械等の反動増による面が大きく、反面、前月増加した金属加工機械(圧延機械、鉄鋼用ロール)、合成樹脂加工機械は反落をみたほか、化学機械、標準モーター等も減少を続けている。なお、1~3月期の前期比では10~12月期-0.3%のあと+5.3%となった。

機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は2月に-17.6%と反落のあと3月は+47.3

%の著増となった。このような3月の急増には、これまで繰り延べられていた電力からの受注が集中したほか、期末月とあってメーカーが引合い中のものを一括計上したり、早期受注獲得に努めたことも影響している模様である。これを原計数の前年同月比でみると、非製造業+54.3%となっているが、製造業は-11.4%と低水準にとどまっている。受注内容を業種別にみると、非製造業では電力を中心に、前月比+64.0%の大幅反動増を示したほか、製造業からの受注も鉄鋼、紙・パルプ、石油、自動車を中心に+32.5%と伸び率としては43年以降では最高となった。なお1~3月通計では前期比+21.8%(45年10~12月期-18.4%)となったが、製造業では+2.2%とほぼ横ばいにとどまった。

建設工事受注額(季節調整済み、前月比)は2月-7.7%のあと、3月(速報)は+39.8%の著増となった。これは3か月減少を続けていた民需が+74.5%と大幅増加を示したことによるもので、機械受注同様、期末要因が相当響いているとみられ、一方、官公需は+4.4%の微増にとどまった。

◇商品市況に底値感台頭

4月にはいつからの商品市況をみると、スプ糸、木材、塩ビ等軟弱な地合いを続けているものも少なくないが、他方では石油製品、セメント等が堅調を続けたほか、形鋼、厚板、綿布、人絹糸、段ボール原紙等値上がりするものもふえ、また合繊、綿糸にもいくぶん底堅さが加わってきたようにかがわれる。

これは、従来一部の問屋・メーカー筋にみられた換金売りの動き(鉄鋼、綿糸)が金融の引きゆるみ傾向もあり峠を越すとともに、季節需要の台頭(綿布、合繊織物、紙)や輸出の好伸(鉄鋼、合繊糸)を背景に値ごろ感などから一部扱ひ筋やユーザー筋に在庫を多少補充する動きが出はじめたことなどによるものとみられる。こうしたことから、一部に商況は最悪期を脱したとの感触をもらす向き(鉄鋼、合繊)もみられ、底値感が漸次広がりつつある。もっとも、2月下旬以来高騰を続けてき

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	45年		46年	46年		
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月
民需	2,670	2,421	2,718	2,727	1,920	3,508
	(+6.4)	(-9.3)	(+12.3)	(+11.4)	(-29.6)	(+82.7)
同(船舶を除く)	2,370	1,934	2,356	2,327	1,917	2,823
	(+3.6)	(-18.4)	(+21.8)	(+24.0)	(-17.6)	(+47.3)
製造業	1,344	1,087	1,110	956	1,022	1,354
	(-8.0)	(-19.1)	(+2.2)	(-4.5)	(+6.9)	(+32.5)
非製造業	1,314	1,388	1,578	1,766	890	2,079
	(+25.3)	(+5.6)	(+13.7)	(+15.9)	(-49.6)	(+133.7)
同(船舶を除く)	1,026	867	1,267	1,384	915	1,500
	(+22.4)	(-15.5)	(+46.0)	(+55.6)	(-33.8)	(+64.0)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

た銅が月央に至り海外相場の反落を映じて騰勢一服となっており、そのほかの主要品目についても生産調整の継続下でありながらも総じて在庫水準がかなり高いうえ、実需の盛り上がり乏しいことから、相場の反発力は概して弱く、最近の動きがただちに商品市況の本格的立ち直りにつながるとみる向きはまだ少ない。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……3月下旬から下げ渋り商状をみせていたが、4月にはいって生産調整の強化、一部ユーザー筋の在庫補充の動きなどに、問屋・特約店筋の売り腰引締めも加わって形鋼、厚板が約3ヵ月ぶり反発し、棒鋼、カラー平板(亜鉛鉄板)も強含みで推移した。

繊維……スフ糸が統落したが、合織をはじめ、そ毛糸、人絹糸等は保合ないし強含みとなった。綿糸については連休を控えて商社・問屋筋に模様ながめ気運が強まり、月末近く弱含みとなったが、織物の売れ行きが持ち直してきたため、機

屋筋の糸買い意欲はようやく高まる気配をみせており、また合織についても輸出が引き続き好調であるうえ、需要期入りもあってナイロンを除き大勢保合いながら、いずれも底堅さが加わってきている。

非鉄金属……銅は海外相場の急騰に伴い国内建値が4月前半トン当り45千円、後半30千円それぞれ引き上げられ、市中相場も月央にかけて続騰したが、その後海外相場が反落したため騰勢頭打ちとなった。鉛・亜鉛は海外相場の落着きを映じて保合ないし強保合い、また2月以来じり高商状を続けてきたすずは海外相場の軟化を映じ上旬末近く反落したが、月末にかけて再び持ち直した。

石油製品……3月に続いて4月もガソリン(キロ当り平均1,000円高)をはじめ軽油(同900円高)、A・B重油(同800円高)、C重油・灯油(同600円高)等がOPEC諸国の第2次原油値上げに伴う元売り各社の価格引上げ方針を映じて軒並み値上がりした。

卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比上昇率		最近の推移(前月(旬)比上昇率)								
		44年度 平均	45年度 平均	46年			46年3月			46年4月		
				1月	2月	3月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	
総平均	100.0	+ 3.2	+ 2.4	- 0.2	- 0.2	- 0.2	- 0.1	保合	保合	+ 0.3	保合	
食料品	15.7	+ 4.2	+ 2.4	- 0.9	+ 0.2	- 0.4	- 0.3	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	- 0.1	
繊維品	10.7	+ 0.4	+ 5.2	- 1.1	+ 0.1	- 0.2	- 0.1	+ 0.1	+ 0.1	- 0.4	- 0.2	
鉄鋼	9.7	+ 11.3	+ 2.2	+ 0.9	- 1.4	- 2.0	- 1.0	- 0.5	- 0.2	- 0.2	+ 0.1	
非鉄金属	4.4	+ 18.2	- 7.6	- 1.8	- 1.2	+ 4.2	+ 1.6	+ 1.5	+ 1.8	+ 3.7	+ 0.5	
金属製品	3.8	+ 3.0	+ 4.2	+ 0.1	+ 0.1	- 0.2	- 0.2	保合	- 0.2	保合	保合	
機械器具	22.1	+ 0.1	+ 1.5	保合	- 0.1	- 0.1	保合	保合	保合	保合	保合	
石油・石炭・同製品	5.6	- 1.5	+ 4.5	+ 1.6	+ 0.7	+ 1.3	+ 0.6	+ 0.2	+ 0.7	+ 2.8	+ 0.2	
木材・同製品	6.2	+ 3.0	+ 3.4	- 0.6	- 0.7	- 1.0	- 0.2	- 0.7	+ 0.3	- 0.1	- 1.0	
窯業製品	3.0	+ 2.3	+ 4.8	+ 0.3	保合	+ 0.3	+ 0.3	保合	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	
化学製品	7.6	- 0.4	+ 0.5	- 0.1	+ 0.2	- 0.1	保合	保合	- 0.1	保合	保合	
紙・パルプ・同製品	3.4	+ 3.7	+ 6.7	- 0.4	- 0.7	- 0.4	- 0.1	- 0.1	- 0.4	+ 0.5	+ 0.2	
雑品目	7.9	+ 2.7	+ 3.4	+ 0.1	保合	保合	保合	- 0.1	- 0.1	- 0.1	- 0.1	
工業製品	82.0	+ 3.0	+ 3.0	- 0.2	- 0.2	- 0.1	保合	保合	保合	+ 0.3	保合	
うち 大企業性	59.6	+ 2.3	+ 1.5	保合	- 0.4	- 0.1						
中小企業性	21.0	+ 4.4	+ 6.5	- 0.5	- 0.1	- 0.1						
非工業製品	18.0	+ 4.1	- 0.1	- 0.5	+ 0.2	- 0.3	- 0.3	保合	+ 0.3	+ 0.2	- 0.3	

(注) 本行調べ。

セメント……需給地合いは堅調を続けており、メーカーがさきに打ち出した販売価格の引上げは生コン業者向けにばら積み分、袋詰め分ともかなり浸透してきている模様である。

木材……各市場とも依然荷動きが低調で、相場も、ひば、ひのき等を中心にじり安傾向を続けた。

化学品……塩ビが在庫圧迫から弱含みを続け、また塩酸は鉄鋼向けを中心とする出荷の停滞から需給関係が一段と悪化し、値下がりを示した。そのほか塗料もカラートタン減産の影響から荷動きは閑散で、市況は船舶塗装用を除いては総じて弱含みとなっている。

紙……洋紙ではコート紙が供給圧力の増大見込みから小幅続落したが、上質紙が生産調整の強化を背景に底堅い動きを示したほか、クラフト紙も中小ユーザー向けを中心に値上げが徐々に浸透し強含みとなっている。また板紙では、段ボール原紙が青果関連需要の台頭からKライナーを中心に反発を示した。

砂糖……清涼飲料関係需要の増加に加え、春闘ストに伴う減産見越しもあって月央には昨年11月後半ごろの水準(キロ当たり118円)にまで回復したが、下旬にはいって海外原糖相場の軟化などから弱保合いとなった。

(卸売物価——統 落)

3月の卸売物価は、総平均で前月比-0.2%と5ヵ月連続の下落となった。類別では石油・石炭・同製品(原油、C重油、原料炭)が統騰し、非鉄金属も海外市況の急反発から銅地金を中心に久しぶりに反騰に転じたが、反面、鉄鋼、木材・同製品が統落したのをはじめ、食料品、繊維品、金属製品、機械器具、化学品、紙・パルプ・同製品等値下がりを示すものが多かった。また産業別では工業製品が大企業性製品を中心に統落し、非工業製品も鉱業生産物が統騰したものの、農林水産物の値下がりが響き反落となった。

この結果、45年度間では-0.7%(前年度+5.0%)と36年度(-0.4%)以来9年ぶりの反落となり、ま

た、年度平均上昇率では前年度比+2.4%(前年度+3.2%)と政府見通し(+2.6%)を若干下回った。年度間の推移をみると、国内需給緩和、海外市況軟化などに伴う鉄鋼、非鉄金属の下落を主因に卸売物価は昨年5月以降弱含みに転じ、秋以降は石油・同製品が原油高から騰勢を強め、また非鉄金属も年度末近くになって海外市況の持ち直しから急反発を示したものの、前記鉄鋼の軟調持続に加え繊維品、木材・同製品、紙・パルプ・同製品等の値下がりから総じて弱基調を続けた。

なお4月にはいってからは、石油製品、非鉄金属が大幅統騰したほか、紙・パルプ・同製品、窯業製品等も値上がりしたため上旬には前旬比+0.3%と10旬ぶりに反騰を示したが、中旬には鉄鋼が久しぶりで反発した反面、木材・同製品が大幅下落したため保合いとなった。

(工業製品生産者物価——統 落)

3月の工業製品生産者物価は、総平均で前月比

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		44年度 平均	45年度 平均	46年		
				1月	2月	3月
総 平 均	100.0	+2.4	+2.5	-0.2	-0.2	-0.1
食 料 品	12.6	+2.4	+4.3	保合	+0.3	+0.1
天然および化学繊維	3.0	-1.1	+6.7	-1.7	+0.5	-0.3
合 成 繊 維	1.4	-3.1	-6.8	-3.3	-0.9	-1.4
織 物	2.8	+1.3	+1.5	-1.3	+0.1	-0.5
織 維 二 次 製 品	3.2	+3.4	+7.4	-0.2	-0.3	-0.1
普 通 鋼 鋼 材	7.2	+10.2	+0.8	+0.5	-1.3	-2.8
特 殊 鋼 鋼 材 其 他	2.5	+3.0	+5.5	-0.1	-0.3	保合
非 鉄 金 属	4.4	+16.5	-6.5	-1.5	-1.1	+2.5
金 属 製 品	4.6	+2.2	+3.1	-0.4	保合	-0.2
一 般 機 械	10.4	+1.6	+3.3	+0.1	+0.1	保合
輸 送 機 械	8.3	-1.2	+0.2	保合	保合	+0.1
電 気 機 械 器 具	9.1	+0.1	+1.1	-0.3	保合	-0.6
石 油 ・ 石 炭 製 品	3.7	-1.6	+4.6	+1.3	+0.4	+1.3
木 材 ・ 同 製 品	5.0	+3.5	+6.3	-0.3	-0.6	-0.2
窯 業 製 品	3.4	+1.4	+2.9	+0.1	保合	+0.1
化 学 品	7.8	-1.0	-0.2	-0.2	-0.3	保合
紙 ・ パ ル プ ・ 同 製 品	4.5	+2.9	+6.0	-0.5	-0.2	+0.3
雑 品 目	6.1	+2.7	+3.2	-0.1	-0.1	+0.1

(注) 本行調べ。

-0.1%と卸売物価同様5ヵ月連続の下落となった。これは普通鋼鋼材、合織、天然および化学繊維、織物、繊維二次製品、木材・同製品等の値下がりに基づくが、石油・石炭製品、非鉄金属、紙・パルプ・同製品は上昇しており、これら3品目については卸売物価と対比した場合、生産者物価の上昇幅が大きいのが目をひく。

なお、45年度では年度初来-0.8%と前年度(+4.6%)に比べかなりの下落を示した(年度平均では+2.5%、前年度+2.4%)。類別にみると食料品、一般機械、石油・石炭製品等は値上がりしたが、普通鋼鋼材、合成繊維、非鉄金属等は大幅下落となった。

(4月の消費者物価——大幅反騰)

消費者物価(東京)は、2、3月に総合でそれぞれ前月比-0.4%、-0.1%と続落したあと、4月(速報)には前月比+2.0%と3ヵ月ぶりに反騰、また季節商品を除いても前月比+2.0%の大幅上昇となった(前年同期比では+6.6%、季節商品を除けば+8.1%)。

これは、新聞購読料、授業料、雑誌代等の大幅値上がりから雑費が前月に比べ+5.1%と大きく上昇したことが主因であるが、このほか食料(+0.6%)、被服(+0.8%)、住居(+0.4%)なども、それぞれ野菜、春物衣料、家賃等の値上がりを映じて上昇した。

なお、3月の全国消費者物価は、野菜、生鮮魚介等季節商品の値下がりを中心に総合で前月比-0.2%の続落(季節商品を除けば+0.2%)となった(前年同月比+5.6%)。この結果、45年度平均では政府見通しどおり+7.3%(季節商品を除けば+6.3%)の上昇(統計作成の38年度以来最高の上昇率)となり、費目別では被服(+9.5%)、食料(+7.9%)の上昇が目だった。

(輸出入物価——ともに続騰)

3月の輸出物価は前月比+0.2%と4ヵ月連続の上昇(船舶を除けば保合い)となった。品目別では金属・同製品、食料品、化学製品等は下落したが、機械器具が船舶を中心に続騰したほか、繊維品が

反騰し、また合板、自転車用タイヤ等の雑品目も若干値上がりした。一方輸入物価は鉱物性燃料、金属の続騰を主因に前月比+0.6%となり、このところ輸出物価を上回る騰勢が続いている。このため、3月の交易条件指数は前月比-0.4%の悪化となった。

なお45年度間でみると、輸出物価は世界的需給緩和、国内市況悪化などによる金属・同製品、繊維品、化学製品の低落もあって+0.6%(船舶を除けば-0.6%)と前年度の+6.2%(同+5.9%)に比べ騰勢が大幅に鈍化した(年度平均では+3.5%、前年度+4.0%)。一方、輸入物価も、鉱物性燃料がとくに年度後半にOPECの原油値上げを映じて上昇し、また金属も海外高から年度末近くに急騰をみたが、そのほかでは総じて落ち着いた動きを示したため、年度間上昇率は+0.7%と前年度の+5.2%を大幅に下回った(年度平均では+2.4%、前年度+3.8%)。

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)			最近の 前年 同月 比	
		44年度 平均	45年度 平均	46年				
				2月	3月	4月		
消 費 者 物 価	総 合	100.0	+6.6	+6.9	-0.4	-0.1	+2.0	+6.6
	(季節商品 を除く)	91.4	+5.6	+6.3	-0.1	+0.1	+2.0	+8.1
	食 料	40.9	+8.1	+7.4	-0.8	-0.5	+0.6	+4.2
	住 居	10.7	+3.0	+5.5	+0.9	保合	+0.4	+6.1
	光 熱	4.5	+0.3	+1.1	+0.2	保合	保合	+2.3
	被 服	13.0	+7.2	+11.0	-1.3	+0.5	+0.8	+11.1
輸 入 物 価	雑 費	31.0	+6.3	+5.7	+0.1	保合	+5.1	+8.6
	全 国	100.0	+6.4	+7.3	-0.2	-0.2		+5.6
	(季節商品 を除く)	91.4	+5.2	+6.3	保合	+0.2		+6.6
	上 都 府	100.0	+6.6	+7.4	-0.2	-0.2		+5.7
	口 5 万 市	91.3	+5.3	+6.4	+0.1	+0.2		+6.9
	以 下							
輸 出 物 価	輸 出		+4.0	+3.5	+0.2	+0.2		+0.6
	輸 入		+3.8	+2.4	+0.4	+0.6		+0.7
	交 易 条 件		+0.2	+1.1	-0.2	-0.4		-0.1

(注) 1, 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。
2, 46年4月は速報。

◇国際収支は既往最高の黒字

3月の国際収支は、貿易収支が輸出の著増など

国際収支

(単位・百万ドル)

から大幅な黒字(706百万ドル、前月同383百万ドル)となったほか、長期資本収支で対日証券投資が前月を大幅に上回る流入超となったこともあって、総合収支では529百万ドルの既往最高の黒字(前月同389百万ドル、従来のは最高は45年12月394百万ドル)を記録した。

季節調整後の貿易収支は、輸出が前月比+8.0%と2月(+4.4%)をさらに上回る高い伸びを示した一方、輸入が前月比+1.3%(2月+1.2%)と引き続き小幅な増加にとどまったため、630百万ドルの大幅黒字(前月同502百万ドル)となった。このように季節調整後の貿易収支の黒字は昨年12月に4億ドル台乗せを現示して以来2ヵ月で5億ドル台に乗せ、その翌月にはさらに6億ドル台に乗せるなど、このところかなりの拡大を示している。

なお、1～3月期の前期比では、輸出は+9.2%(前期+4.6%)と43年4～6月期以降最大の伸びとなっており、一方輸入は+0.4%と前期(-0.2%)来の停滞傾向を持続している。

長期資本収支では、本邦資本が本行の対世銀円貸付実施(360億円)、船舶の引渡し集中に伴う延払信用供与の増大を主因に、これまででない大幅な流出超(317百万ドル、前月同105百万ドル)となったが、外国資本が株式、公社債への対日証券投資の引き続き増大(流入超237百万ドル、前月同130百万ドル、既往最高)から224百万ドルの流入超(前月同200百万ドル)となったため、全体では93百万ドルの流出超(前月流入超95百万ドル)にとどまった。

金融勘定では、為銀の対外ポジションは年度末事情もあって買持輸出手形が増大したにもかかわらず、外銀借入れの増加などから小幅の改善

	45年		46年	46年		45年 3月
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	2月	3月	
経常収支	613	948	488	212	462	173
貿易収支	1,119	1,451	1,085	383	706	404
輸出	4,951	5,421	4,945	1,620	2,094	1,649
輸入	3,832	3,970	3,860	1,237	1,388	1,245
貿易外収支	△ 458	△ 453	△ 516	△ 157	△ 185	△ 182
移転収支	△ 48	△ 50	△ 81	△ 14	△ 59	△ 49
長期資本収支	△ 315	△ 381	△ 191	95	93	△ 178
本邦資本	△ 392	△ 540	△ 650	△ 105	△ 317	△ 276
外国資本	77	159	459	200	224	△ 98
基礎的収支	298 (75)	567 (243)	297 (786)	307 (426)	369 (293)	△ 5 (△ 92)
短期資本収支	244	179	116	14	91	90
誤差脱漏	108	△ 29	196	68	69	82
総合収支	650	717	609	389	529	167
金融勘定 外貨準備増 その他	650 △ 213	717 843	609 1,059	389 336	529 590	167 238
外貨準備高	3,556	4,399	5,458	4,868	5,458	3,868
為銀対外 ポジション	1,185	1,060	866	840	866	395

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。
4. *にはSDR配分額128百万ドルを含む。

輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通関		輸出	輸出	輸入
	輸出	輸入	貿易 じり	輸出	輸入	信用状	認証	承認
45年7～9月	1,600 (+ 3.5)	1,301 (+ 5.2)	299	1,622 (+ 3.1)	1,644 (+ 6.6)	1,312 (+ 3.2)	1,709 (+ 5.0)	1,562 (+ 5.6)
10～12月	1,674 (+ 4.6)	1,298 (- 0.2)	376	1,702 (+ 4.9)	1,638 (- 0.4)	1,393 (+ 6.2)	1,794 (+ 4.9)	1,526 (- 2.3)
46年1～3月	1,828 (+ 9.2)	1,303 (+ 0.4)	525	1,867 (+ 9.7)	1,630 (- 0.5)	1,514 (+ 8.7)	1,941 (+ 8.2)	1,562 (+ 2.4)
45年12月	1,716 (+ 4.7)	1,304 (+ 2.5)	412	1,763 (+ 7.1)	1,633 (+ 1.6)	1,443 (+ 6.1)	1,827 (+ 2.2)	1,457 (- 5.8)
46年1月	1,729 (+ 0.8)	1,287 (- 1.3)	442	1,759 (- 0.2)	1,632 (- 0.1)	1,440 (- 0.2)	1,911 (+ 4.6)	1,687 (+ 15.8)
2月	1,805 (+ 4.4)	1,303 (+ 1.2)	502	1,845 (+ 4.9)	1,632 (0)	1,469 (+ 2.0)	1,895 (- 0.8)	1,438 (- 14.8)
3月	1,950 (+ 8.0)	1,320 (+ 1.3)	630	1,998 (+ 8.3)	1,626 (- 0.4)	1,633 (+ 11.2)	2,017 (+ 6.5)	1,562 (+ 8.6)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
3. 季節調整はセンサス局法による。

(26百万ドル)にとどまり、一方、外貨準備は月中590百万ドルの著増となった(月末残高は5,458百万ドル)。

3月の輸出(通関ベース)は、前年同月比で+29%(2月+22%)と著増した。これには、船舶の引渡し集中のほか、内需不振に伴う輸出意欲の高まりによる面もみのがせず、これに期末事情もからみ船積みが進捗したのに加え、米国港湾スト見越し

や対米繊維自主規制を控えての積み急ぎ、同国における鉄鋼スト備蓄買いの動きなどの特殊事情も大きく響いた。品目別にみると、上記船舶(前年同月比+35%)のほか、自動車(同+76%)、テレビ(同+51%)、鉄鋼(同+30%)等の増加が目だった。また地域別には、米国向け(同+36%)が自動

通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	(単位・百万ドル)				
	45年		46年	46年	
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月
食料品	199 (+18)	165 (+28)	146 (+17)	47 (+17)	55 (+15)
魚介類	94 (+16)	99 (+20)	72 (+22)	23 (+13)	28 (+28)
繊維製品	621 (+7)	712 (+8)	558 (+13)	203 (+13)	230 (+13)
綿織物	48 (-13)	55 (-9)	38 (-5)	14 (-2)	17 (-1)
合繊織物	166 (+22)	192 (+16)	150 (+23)	56 (+28)	139 (+21)
化学製品	307 (+5)	347 (+15)	342 (+19)	113 (+8)	137 (+24)
非金属鉱物製品	96 (-4)	97 (-8)	82 (-4)	27 (-8)	33 (-1)
金属製品	1,009 (+31)	1,039 (+19)	963 (+18)	305 (+9)	427 (+29)
鉄鋼	748 (+34)	776 (+19)	745 (+18)	232 (+9)	332 (+30)
機械機器	2,276 (+22)	2,632 (+28)	2,504 (+30)	798 (+35)	1,070 (+35)
(船舶を除く)	1,998 (+25)	2,211 (+29)	2,014 (+31)	648 (+27)	839 (+35)
テレビ	118 (+7)	108 (+8)	98 (+39)	29 (+19)	42 (+51)
ラジオ	196 (+20)	194 (+11)	153 (+13)	53 (+13)	62 (+10)
自動車	360 (+37)	410 (+54)	438 (+66)	128 (+52)	181 (+76)
船舶	278 (+8)	421 (+22)	489 (+25)	150 (+82)	231 (+35)
光学機器	134 (+15)	136 (+10)	117 (+12)	40 (+9)	49 (+16)
その他	535 (+14)	512 (+15)	464 (+22)	161 (+22)	194 (+31)
合計	5,042 (+19)	5,503 (+20)	5,060 (+23)	1,654 (+22)	2,148 (+29)
(船舶を除く)	4,764 (+20)	5,082 (+20)	4,570 (+23)	1,504 (+18)	1,916 (+28)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

	(単位・百万ドル)				
	45年	46年		46年	
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月
食料品	670 (+24)	720 (+23)	705 (+22)	230 (+17)	247 (+19)
小麦	92 (+23)	79 (+5)	90 (+10)	26 (-6)	35 (+14)
とうもろこし	64 (+17)	78 (+8)	65 (-12)	23 (-1)	19 (-23)
砂糖	76 (+59)	86 (+55)	93 (+60)	35 (+83)	29 (+37)
原燃料	2,703 (+24)	2,821 (+22)	2,775 (+15)	859 (+12)	991 (+15)
羊毛	90 (-16)	68 (-22)	66 (-32)	22 (-28)	20 (-41)
綿花	111 (+14)	119 (+15)	134 (+21)	43 (+16)	54 (+28)
鉄鉱石	310 (+23)	327 (+28)	317 (+19)	91 (+6)	117 (+32)
鉄鋼くず	109 (+67)	64 (-8)	43 (-34)	8 (-54)	15 (-36)
非鉄金属鉱	270 (+31)	265 (+21)	246 (-4)	72 (-4)	82 (0)
大豆	88 (+27)	104 (+34)	109 (+24)	36 (+22)	38 (+50)
木材	419 (+24)	430 (+25)	387 (+15)	130 (+21)	135 (+8)
石炭	276 (+50)	297 (+61)	272 (+45)	83 (+32)	98 (+42)
原油	541 (+19)	618 (+15)	679 (+25)	214 (+30)	249 (+21)
化学製品	250 (+28)	257 (+22)	247 (+3)	81 (+6)	83 (0)
機械機器	557 (+27)	592 (+38)	644 (+15)	239 (+31)	228 (+5)
鉄鋼	77 (+53)	44 (-33)	40 (-51)	11 (-53)	12 (-66)
非鉄金属	239 (-2)	206 (-19)	163 (-38)	54 (-37)	55 (-34)
その他	336 (+38)	329 (+27)	293 (+13)	95 (+14)	104 (+12)
合計	4,831 (+24)	4,968 (+21)	4,867 (+11)	1,568 (+11)	1,720 (+9)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

車、テレビ、鉄鋼、化学品を中心に大幅の増加となったほか、アフリカ向け(同+76%)および中南米向け(同+33%)もそれぞれ船舶および鉄鋼の伸長から著増し、東南アジア向け(同+18%)も船舶、テレビ等が増加したため前月に続き伸び率を高めた。

4月の輸出信用状接受高(季節調整済み、前月比)は、3月に大幅な増加(+11.2%)となったあと+5.1%とかなりの増勢を続けた(原計数の前年同月比+36%)。これは、主力の米国向けが前記特殊事情や同国の景気回復などから自動車、鉄鋼、電気機械を中心に前年同月比+52%と引き続き著増したほか、アジア、カナダ、中南米向け等も高い伸びをみせたためである。

3月の輸入(通関ベース)は、前年同月比で+9%(2月+11%)と引き続き低い伸びにとどまった。石炭、原油が価格高から、綿花も先高見越しから、また鉄鉱石も長期契約物の入着からそれぞれかなりの増加を示したが、反面、鉄くず(前年同月比-36%)、銑鉄(同-66%)、非鉄金属(同-34%)、同鉱石(同0%)、羊毛(同-41%)等の輸入は関連生産の停滞、輸入分在庫の高水準等を映じきわめて低調であった。

3月の輸入承認額(季節調整済み、前月比)は、前月著減(-14.8%)のあと+8.6%の増加となった(原計数の前年同月比+8%)。品目別(前年同月比)には、鉱物性燃料が石油の値上がり等からかなり増加したが、鉄くず、非鉄金属鉱等の金属原料や繊維原料は引き続き低調であった。

3月の輸入素原材料関連指標(製造業、季節調整済み)の動きをみると、消費が前月比+2.2%と上昇したが、在庫も鉄くず、原綿、マンガン鉱等を中心にほぼ同程度の増加(前月比+2.3%)となったため、在庫率は106.0(40年=100)と前月(105.9)並みの高水準を続けた。なお、主要輸入素原材料の同月末在庫水準をみると、羊毛、マンガン鉱等一部に前年並みのものもあるが、亜鉛鉱は前年の2.3倍に上り、鉄くず、鉄鉱石、原料炭は前年を4~5割、ニッケル・鉛鉱、綿花等は2~3割方

上回っているなど、相当高いものが多い。

45年度中の国際収支は、総合収支で黒字1,999百万ドルと前年度(同1,989百万ドル)並みの大幅黒字となった。これは、輸出(前年度比+21%、44年度+23%)が自動車、鉄鋼、船舶、合繊織物等を中心に通年好調を続け、とくに1~3月に著増した一方、前半高水準の輸入(上期中前年同期比+27%)が、下期にはいって生産活動の鎮静化とともに金属原材料を中心に伸び悩み(前年同期比+15%)となったことから、貿易収支の黒字が4,513百万ドルと前年度(同3,730百万ドル)を大きく上回ったため、このほか短期資本収支が貿易信用の増加等から688百万ドルの黒字(前年度同370百万ドル)となったことも寄与している。

この間、長期資本収支は、延払信用供与の増大等に伴う本邦資本の流出増や、対日証券投資、民間インパクト・ローン、外債発行代り金の受入れ減少による外国資本の流入減などから1,350百万

国際収支(年度間)

(単位・百万ドル)

	45年度	44年度	変化
経常収支	2,435	2,056	379
貿易収支	4,513	3,730	783
輸出	19,916 (+ 20.8)	16,493 (+ 22.9)	3,423
輸入	15,403 (+ 20.7)	12,763 (+ 22.2)	2,640
貿易外収支	△ 1,849	△ 1,487	△ 362
移転収支	△ 229	△ 187	△ 42
長期資本収支	△ 1,350	△ 642	△ 708
基礎的収支	1,085	1,414	△ 329
短期資本収支	688	370	318
誤差脱漏	226	205	21
総合収支	1,999	1,989	10
金融勘定	-1,999	1,989	10
外貨準備増減	1,590	655	935
その他	537	1,456	△ 919
外貨準備高	5,458	3,868	1,590
為銀対外ポジション	866	395	471

- (注) 1. △印は赤字、ただし為銀対外ポジションの△印は負債超過、「変化」欄の△印は悪化。
2. カッコ内は前年度比増減率(%)。
3. 「外貨準備増減」はSDR配分額を含む(46年1月128百万ドル、45年1月122百万ドル)。

ドルの流出超(前年度同642百万ドル)となった。また、貿易外および移転収支も、万国博による旅行受取りの増加がみられたものの、貿易規模の拡大に伴う運輸収支の悪化などから赤字幅を拡大した。

金融勘定では、為銀の対外ポジションは買持輸出手形が大幅に増加したものの、輸入の増加を映

じた外銀借入れおよび海外短資の取入れ増大などから前年度(1,225百万ドル改善)に比し小幅の改善(471百万ドル)にとどまった。一方、外貨準備は、本行の輸入資金貸付に伴う外為会計の対為銀スワップ取引、イタリアの対IMF債権肩代わり等が行なわれたものの、1,590百万ドル(SDRの配分額を含む)の増加となった。